

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290700059		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム 菜の花ホーム	ユニット名	1階
所在地	静岡県伊豆市小土肥787-2		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2290700059&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人ひとりの今までの生活歴を考え、その方にあった生活が出来るよう、スタッフに周知し、また、入居者の可能性を探り、出来る事を増やし、又、出来ている事を継続し行うことが出来るよう支援している。また、特養と併設されている利点を活かし、防災訓練等、他部署のスタッフと協力し、すぐに駆けつける事ができるような建物構造となっている。入浴も、半機械浴を導入し、身体状況に合わせて入浴が可能となっている。どの部屋も日当たりがよく、フロアや居室から見える雄大な海岸美や夕日の美しさは類を見ず、四季を通じて温暖な気候に恵まれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆半島西岸の駿河湾を望む小高い丘陵に位置している。名前の通り、この時期施設玄関近くの綺麗な菜の花が出迎えてくれた。地元で信頼の厚い特別養護老人ホーム「土肥ホーム」の敷地の中に、昨年4月に開設された。法人のしっかりした組織運営や併設施設・地域との連携に支えられて活動している。独自の理念として「自分らしく暮らせる、家庭的な生活の実現」を掲げ、利用者本位の運営が行われている。管理者をはじめとして職員もやる気一杯である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菜の花ホーム独自の理念を作成し、定期的に内部研修を利用し、スタッフに周知徹底を実施	開設前に職員間で何回か検討を加え、原点に返れる理念として「自分らしく暮らせる、家庭的な生活の実現」を定め、内部研修等で徹底を図っている。	理念をブレイクダウンし、「何がどのようにできれば、理念の実践ができたと言えるのか」を計る物差し作りの検討を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	併設されている特養の清掃ボランティア後に菜の花ホームに立ち寄り、コミュニケーションをとってもらったり、地域住民の方と共に畑を耕したり、また、地域の行事や祭りに参加し交流している	併設特養に150人の清掃ボランティアの存在に象徴されるように、地域との交流は非常に活発である。利用者の話し相手・地域のお祭りへの参加等、相互に日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議を利用し認知症の理解や支援方法を伝えていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、入居者家族、市の職員、地域の民生委員を招き、菜の花ホームの現状報告や意見交換を実施し、サービスの向上に活かしている	家族や市・地域包括支援センター・地域等の参加の下に、2ヶ月に1回着実に開催されている。会議ではホームの状況・依頼事項や家族からの希望・感想等が率直に語られ、ホームの運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の調整や、必要によりその他の確認事項等で連絡をとっている	普段の報告・連絡・相談が行われている。ホーム隣接の「白泉荘」という法人所有の研修・宿泊・交流施設を活用して、市や地域・家族との交流・連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修にて身体拘束についての理解を促し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠については防犯上の施錠のみを実施	身体拘束に関する方針やマニュアルを定め、委員会でのチェックや内部研修で周知徹底を図り、身体拘束「0」の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修にて、高齢者虐待防止関連法についての理解を促し、虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現時点で、契約の締結、解約は菜の花ホーム内での死亡と、特養に移られた方であるが、その方々に対して、しっかり席を設け、不安や疑問点を尋ね、説明実施		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に機会を設け運営に反映している	利用者との普段の触れ合いや家族の面会・電話・運営推進検討会等を通じて率直な意見をお聞きし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修にて意見や提案を聞く機会を設け反映している	「内部研修」がカンファレンスやユニット会議・研修等のホーム運営機能の殆どを担っており、その中で自由に意見や提案を出し合い、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要により、職員と面接をし、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にそのスタッフに合った施設内外・法人内の研修に参加してもらい、知識、技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム事業所の職員と3～4ヶ月に1度のペースで交流する機会を設け、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面接時に困っている事や不安な事、要望等を聞き、実現できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族との面接時に困っている事や不安な事、要望等を聞き、実現できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請があった時点で、その方にとって、グループホームの利用が望ましいのか検討し、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見つけ、役割を持ってもらっている。入居者、スタッフと共に一緒に畑に行き耕したり収穫したり、また、一緒におやつ作りを実施したりと日常生活の中で可能な限り関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の事で気になる事があった場合は、家族と相談し、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される際は、可能な限り、自宅で使われていた馴染みのある家具等を用意していただいている。また、入居前より通っていた床屋に、入居後も継続し通ったり、また、面会も制限なく対応している	家族と協力して、昔馴染の床屋の継続や面会者の暖かい受入れ等、馴染みの関係継続に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルや、またトラブルになりそうな状況が見受けられた場合は、即座にスタッフが介入し孤立せず良好な関係を築くように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された家族に対し、今後、身内の方等の相談があれば、相談する旨を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や、アセスメント時に入居者・家族の意見を聞く機会を設け、把握に努めている	利用開始時の利用者や家族からのアセスメントを下に、日々の関わりの中から利用者の「その人らしさ」の思い、意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方を面接時やアセスメント時等に聞き、日常生活に反映している。また、家族にもこれまでの生活の仕方を確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせ、入浴を実施したり、また、身体状況を把握する為に毎日の血圧測定や検温を実施。また、日々の中で今までの生活歴を把握し、本人の自尊心傷付けないよう有する力を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況により本人、家族と面接を実施し、本人がより良く暮らしてもらうために、話し合いの場面を設け反映している	利用者や家族からのアセスメント、日々のケア記録から介護計画が作成され、3ヶ月前後の短期目標を評価し計画の見直しに繋がっている。	毎月のホーム内会議等を活用し、定期的なカンファレンスによる計画作成から日々のケア実施、そのモニタリングによる見直しへと繋げる仕組み作りが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人のケースにて記録し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームスタッフによる受診対応や、ドライブ等を実施。また、畑を耕す為に近所の方々と共に、耕運機にて耕してもらったり、入居者の近所の方が来所され、一緒に折り紙を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に地元の民生委員の方に、地域資源を確認したり、地域の行事も確認し、楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、本人又は家族に今までの主治医を継続したいのか、それとも協力医療機関の主治医(月2回の在宅時医学総合管理事業の利用)に変更するのかを決めていただいている	家族の協力の下でのかかりつけ医継続支援や、協力医による月2回の検診、毎週の訪問看護師相談等適切な医療支援体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの健康状態を把握し、毎週定期的に訪問する訪問看護師に不安な事等を相談し、指示を仰いでいる。定期的な訪問以外は、電話連絡をし指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、定期的に病院の相談員と連絡を取り状況の確認を実施。また、主治医、家族との話の場に同席してもらい、より正確な情報の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応・終末ケア対応指針の説明と同意を取り、また、その時がきたら再度、説明を実施している	終末期対応の基本指針、職員対応マニュアル、家族との同意書や医療機関との連携体制等が整えられ、家族の思いに沿った看取り支援が行われている。その後の「偲び」カンファレンスが行われ職員間の共有も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修にて緊急時の対応についての理解を促している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、特養と合同で、防災訓練を実施。また、運営推進会議にて報告している	毎月併設の特養と合同防災訓練が実施され、非常用備蓄と合わせその体制が整えられている。施設全体が地域の防災拠点でもあり協力体制も作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室やトイレには鍵を設置し、プライバシーに配慮している。また、居室内の入室時にはノックや言葉かけをし入室している	利用者の「その人らしさ」、「普段の当たり前の姿」を大切にし、入室時のノックや声掛け、居室内外の施錠等日々の関わりの中で利用者の尊厳やプライバシーへの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態を把握し、本人が答えやすい聞き方にて、本人の希望を確認し、自己決定できる体制を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等、本人のペースを考慮し対応している。また、行事についても入居者の方々に希望をとり実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服装等は可能な限り本人に選んで頂き、また、整容も本人にお願いし対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にあつた方法で食事の準備、片付けをしたり、また、畑で作ったものを調理したりと、入居者のレベルに合わせ対応している	管理栄養士の献立を下に利用者の好みも取り入れ、畑の収穫物も加えた食事が提供されている。利用者の出来る準備や片付けを促し、利用者や職員が会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のたてた献立にて食事を提供している。また、毎食の食事摂取量や水分摂取を確認し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、自力での洗浄が困難な入居者にはスタッフと共に洗浄を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄時間の把握に努めトイレでの排泄をしてもらえるよう随時、対応を検討している	排泄チェック表を活用してトイレ誘導を支援している。日々の関わりの中から尿意の感覚を掴み、おむつやパッドの使用から布パンツへの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にて便秘がちな入居者に関しては、体操や歩行する機会を設け改善に努めている。また、水分摂取チェック表にて水分摂取が少なめな入居者に関しては積極的に水分補給を促している。Drにも相談し、下剤の使用も検討している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	期間が開いてしまった方に対しては、スタッフ側から言葉かけをする時があるものの、基本的には、その日に希望をとり入浴を実施している	週2回の入浴を基本に利用者の希望に合わせた対応を実施している。特養施設や隣接の宿泊施設「白泉荘」の温泉も利用可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に合わせ、無理強いはせず臥床されたい入居者に関しては、その入居者のペースにて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の効果や副作用を紙面にし、全てのスタッフが確認できるようにしている。また、医師や訪問看護師に確認したい内容をノートにまとめ、都度、医師や訪問看護師に確認できる体制をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴を考え、畑に行かれる方や花を摘みに行ったり編み物をされたり、ドライブに行かれたりと気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者個人の買い物をスタッフと共に出掛けたり、また、家族の面会時に家族と散歩に出掛けたり、運営推進会議で外泊・外出の依頼を実施している。また、畑に行かれたり、ドライブに行く事も実施している	外出イベントや日常的な買い物、散歩やドライブ等戸外へ出る機会を作っている。施設内の畑作業や居室周りのペランダでの寛ぎなどの支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の能力に応じ、金品を所持されている。また、個人で購入された物品については、菜の花ホームで立替払いを行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より家族に電話をしたいとの希望時は支援したりまた、手紙も敷地内のポストに出しに行く支援を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれるような花や置物等で居心地良く生活できるように工夫している。また、掃除や洗濯も入居者と共に実施し不快なく生活できるように支援している	居室周りの広々としたベランダ、ゆったりとして明るく清潔なリビングに、季節の花や置物等が飾られ快適な日常生活が送れる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂られるスペースとは別に、入居者同士でテレビを見られたり洗濯物を畳んだりとする事が出来るスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人、家族と相談し、なるべく自宅に合った物を持ち込んでもらい、家庭的な雰囲気を出す工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの箆笥や鏡台、写真や思い出の品などが配置され、居室の窓外の景色と合わせて利用者の穏やかで居心地の良い居室が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンオープンキッチンのIH対応にて火の元の安全に努め、また、車椅子の入居者でも食事の支度(包丁を使用する等)が出来るようにカウンターを設置している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290700059		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム 菜の花ホーム	ユニット名	2階
所在地	静岡県伊豆市小土肥787-2		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2290700059&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成24年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者1人ひとりのペースで生活が出来るよう、スタッフに周知し、また、入居者の可能性を探り、出来る事を増やし、又、出来ている事を継続し行うことが出来るよう支援している。 また、特養と併設されている利点を活かし、緊急時等、特養スタッフがすぐに駆けつける事ができるような建物構造となっている。 入浴も、半機械浴を導入し、身体状況に合わせて入浴が可能となっている。 どの部屋も日当たりがよく、景色も良く、落ち着いた生活が可能である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	菜の花ホーム独自の理念を作成し、定期的に内部研修を利用し、スタッフに周知徹底を実施	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設されている特養の清掃ボランティア後に菜の花ホームに立ち寄り、コミュニケーションをとってもらったり、地域住民の方と共に畑を耕したり、また、地域の行事や祭りに参加し交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、運営推進会議を利用し認知症の理解や支援方法を伝えていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、入居者家族、市の職員、地域の民生委員を招き、菜の花ホームの現状報告や意見交換を実施し、サービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の調整や、必要によりその他の確認事項等で連絡をとっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に内部研修にて身体拘束についての理解を促し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠については防犯上の施錠のみを実施		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修にて、高齢者虐待防止関連法についての理解を促し、虐待が見過ごされる事がないよう防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現時点で、契約の締結、解約は菜の花ホーム内での死亡と、特養に移られた方であるが、その方々に対して、しっかり席を設け、不安や疑問点を尋ね、説明実施		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に機会を設け運営に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部研修にて意見や提案を聞く機会を設け反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要により、職員と面接をし、職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にそのスタッフに合った施設内外・法人内の研修に参加してもらい、知識、技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホーム事業所の職員と3～4ヶ月に1度のペースで交流する機会を設け、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面接時に困っている事や不安な事、要望等を聞き、実現できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族との面接時に困っている事や不安な事、要望等を聞き、実現できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請があった時点で、その方にとって、グループホームの利用が望ましいのか検討し、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見つけ、役割を持ってもらっている。入居者、スタッフと共に一緒に畑に行き耕したり収穫したり、また、一緒におやつ作りを実施したりと日常生活の中で可能な限り関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の事で気になる事があった場合は、家族と相談し、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される際は、可能な限り、自宅で使われていた馴染みのある家具等を用意していただいている。また、入居前より通っていた床屋に、入居後も継続し通ったり、また、面会も制限なく対応している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルや、またトラブルになりそうな状況が見受けられた場合は、即座にスタッフが介入し孤立せず良好な関係を築くように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された家族に対し、今後、身内の方等の相談があれば、相談する旨を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や、アセスメント時に入居者・家族の意見を聞く機会を設け、把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方を面接時やアセスメント時等に聞き、日常生活に反映している。また、家族にもこれまでの生活の仕方を確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせ、入浴を実施したり、また、身体状況を把握する為に毎日の血圧測定や検温を実施。また、日々の中で今までの生活歴を把握し、本人の自尊心傷付けないよう有する力を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況により本人、家族と面接を実施し、本人がよりよく暮らしてもらうために、話し合いの場面を設け反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人のケースにて記録し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームスタッフによる受診対応や、ドライブ等を実施。また、畑を耕す為に近所の方々と共に、耕運機にて耕してもらったり、入居者の近所の方が来所され、一緒に折り紙を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に地元の民生委員の方に、地域資源を確認したり、地域の行事も確認し、楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、本人又は家族に今までの主治医を継続したいのか、それとも協力医療機関の主治医(月2回の在宅時医学総合管理事業の利用)に変更するのかを決めていただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人ひとりの健康状態を把握し、毎週定期的に訪問する訪問看護師に不安な事等を相談し、指示を仰いでいる。定期的な訪問以外は、電話連絡をし指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、定期的に病院の相談員と連絡を取り状況の確認を実施。また、主治医、家族との話の場に同席させられ、より正確な情報の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応・終末ケア対応指針の説明と同意を取り、また、その時がきたら再度、説明を実施している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修にて緊急時の対応についての理解を促している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、特養と合同で、防災訓練を実施。また、運営推進会議にて報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室やトイレには鍵を設置し、プライバシーに配慮している。また、居室内の入室時にはノックや言葉かけをし入室している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態を把握し、本人が答えやすい聞き方にて、本人の希望を確認し、自己決定できる体制を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等、本人のペースを考慮し対応している。また、行事についても入居者の方々に希望をとり実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服装等は可能な限り本人に選んで頂き、また、整容も本人にお願いし対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にあつた方法で食事の準備、片付けをしたり、また、畑で作ったものを調理したりと、入居者のレベルに合わせ対応している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のたてた献立にて食事を提供している。また、毎食の食事摂取量や水分摂取を確認し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、自力での洗浄が困難な入居者にはスタッフと共に洗浄を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄時間の把握に努めトイレでの排泄をしてもらえるよう随時、対応を検討している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にて便秘がちな入居者に関しては、体操や歩行する機会を設け改善に努めている。また、水分摂取チェック表にて水分摂取が少なめな入居者に関しては積極的に水分補給を促している。Drにも相談し、下剤の使用も検討している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	期間が開いてしまった方に対しては、スタッフ側から言葉かけをする時があるものの、基本的には、その日に希望をとり入浴を実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に合わせ、無理強いはせず臥床されたい入居者に関しては、その入居者のペースにて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の効果や副作用を紙面にし、全てのスタッフが確認できるようにしている。また、医師や訪問看護師に確認したい内容をノートにまとめ、都度、医師や訪問看護師に確認できる体制をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴を考え、畑に行かれる方や花を摘みに行ったり編み物をされたり、ドライブに行かれたりと気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者個人の買い物スタッフと共に出掛けたり、また、家族の面会時に家族と散歩に出掛けたり、運営推進会議で外泊・外出の依頼を実施している。また、畑に行かれたり、ドライブに行く事も実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人の能力に応じ、金品を所持されている。また、個人で購入された物品については、菜の花ホームで立替払いを行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より家族に電話をしたいとの希望時は支援したりまた、手紙も敷地内のポストに出しに行く支援を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じれるような花や置物等で居心地良く生活できるように工夫している。また、掃除や洗濯も入居者と共に実施し不快なく生活できるように支援している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂られるスペースとは別に、入居者同士でテレビを見られたり洗濯物を畳んだりとする事が出来るスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人、家族と相談し、なるべく自宅に合った物を持ち込んでもらい、家庭的な雰囲気を出す工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンオープンキッチンのIH対応にて火の元の安全に努め、また、車椅子の入居者でも食事の支度(包丁を使用する等)が出来るようにカウンターを設置している		